LK

直前講習

解答

Ｚ会東大進学教室

直前京大国語総合演習

【1 回目】

【問題】

【二】 出典…大江健三郎 『新しい文学のために』 ／ オリジナル問題

文章略解

開かれた心とは想像力を用いて対象を具体的な細部にわたって生き生きと見るものであるのに対し、閉じた心とは知覚を用いて対象を概念化して記号として見るものである。われわれが風景や絵画や文学を把握する時には、対象をバラバラにしか見ることができない閉じた心ではなく、対象の全体や細部にわたって把握する開かれた心が必要である。その際に全体として細部を統合し、全体像であるかたちを把握する行為には想像力が働いている。

解答

問1 概念化された把握とは、既に与えられた言葉によってその言葉の意味するところをそのまま抽象的に捉えるものであるが、対象を意識的に受けとめる場合には、眼前の対象に対して独自の想像力を働かせ、全体像を具体的に細部にわたって、自身の認識する枠組みを通して把握することになり、それは対象に自分の言葉を与える行為であるとも言えるから。〔160字・解答例〕

問2 能動的に対象を捉えようとすることによって、対象そのものが与えるイメージのひろがりが感得されるとともに、主体的に対象に関わろうとしている自分自身の生き生きとした内面が意識される、ということ。〔94字・解答例〕

問3 自然の風景に接したときに、セザンヌが独自の想像力を働かせ、風景を自身の中で再構築した捉え方を、ありのままの風景にあてはめたうえで感じること。〔70字・解答例〕

問4 絵画は一枚の全体像の中で作者の想像力の働きを表現しうるため、作者の心的内容の具体性を表現に付与しやすい。これに対して言葉を介在させる文学は表現そのものにかたちを与えることはできないため、より想像力の働きに頼らざるを得ない点。

問5　人が対象を意識的に把握するというのは、対象をありのままに捉えることではない。それは対象を捉えようとする主体の積極的・能動的な働きであり、そこでは対象を統合する、あるいはかたちをあたえるということ、つまり「異化」が行われている。この「異化」の作用を可能にするのが想像力である。この想像力は、対象を把握する、表現する、あるいはその表現に共鳴する、といったさまざまなレヴェルで必要とされるものである。〔197字・解答例〕

〔112字・解答例〕

解説

問1　設問に答えようとして本文を追いかけてゆくと、結局、本文全体をまとめなければならないことに気づく、つまり、「要約型」の問題である。しかも、理由説明であり、なおかつ「相違」の説明も必要だから、かなりの難問。先に、**問2**〜**問5**の答案をまとめてから、その答案のポイントを活用しつつ**問1**をまとめるというのが現実的な手順だろうか。（**問5**も要約型だから、これも大変）。

「概念化された把握」とは、《6段落》から、「さきの広告」に代表される把握の仕方であり、その特徴は、「目的のはっきりした情報を伝える記号の集まり」「自動化作用や代数化」（《2段落》）「閉じた心」（《1段落》）である。これと対比的に、「意識的に受けとめる、把握する」ことの特徴は、「想像力が介入する」「全体として把握し、かつは細部にわたってとらえてゆく」（《6段落》）、「開かれた心」「具体的」「生きいき」（《1段落》）「異化」（《2段落》）「積極的」「能動的」「自分の言葉として表現することもできる」（《5段落》）「統合する、かたちをあたえる働き」（《8段落》）「バラバラの家・樹・野原を統合し、ひとつの全体として把握」（《9段落》）「人間を見てとり、言葉で人間を表現する、ということが、いかに想像力的な作業であるか」（《13段落》）である。特に、《13段落》を軸にすると、「意識的に受けとめる、把握する」→「想像力」→「言葉」というつながりがみえてくる。

〈「概念化された把握」が、既成の見方に従って自動的に対象を捉えるだけなのに対し、「意識的に受けとめる、把握する」ことは、対象と積極的に関わり、想像力を使ってかたちやスタイルを統合的に与えるという、言葉の本質に関わる異化作業であるから。〔116字〕〉というまとめ方も可能だろう。

問2　傍線部を含む一文をチェックすると、「さらに内部の声は、その美しい家を見ている僕ら自身の内実をも、表現しているはずである。」となっている。「さらに」「をも」に注目して、前文とつなげると、「美しい家を見る→内部の声＝想像力的なふくらみをそなえた言葉→僕ら自身の内実をも表現」というつながりが見えてくるだろう。段落の後半を参考にすると、「目にうつるもの」の描写が、それを見ている人間の内面をも照らし出す、ということになるし、《8～11段落》をふまえると、外の風景をとらえるということは、あるかたち、あるスタイルをあたえるという主体的な行為であるから、そのとらえ方とは、想像力を中心とした主体の意識そのもののかたちにほかならない、ということになる。

答案は、この内容をまとめて表現すればよいが、「家」や「風景」という具体的な言葉よりも、「対象」のような一般化・抽象化した言葉で表現した方がよいだろう。他の問との関係を考えて、同じような内容を書くことになる場合にはできるだけ「書き分ける」工夫が必要だし、字数（解答用紙の行数）が少ない時には、簡潔な表現が要求されていると考えた方がよい。出題者＝採点者が、「答案全体」を見て、受験生の国語力を総合的に判断しようとするということも意識して、「答案全体のデザイン」に気を配ろう。

なお、当然のことだが、傍線部の「をも」という言葉から、「僕ら自身の内実」のほかに、「美しい家」を表現する、という内容も必要である。「も」「さらに」「なおさら」「さえ」等の、「比較」や「添加」を表す言葉が傍線部にあれば、傍線部以外の内容も踏まえて説明する必要がある。

問3　傍線部を含む一文をチェックすると、「しばしば僕らは、この山の岩肌や、その裾の樹木はセザンヌのスタイルだ、と感じることがある」となっているから、絵を見てセザンヌを感じるのではなく、目の前の風景にセザンヌのスタイルを感じる、ということを説明しなければならない。つまり、眼前の風景を見ているうちに、「セザンヌの絵の風景のとらえ方」「その統合の仕方、かたちのあたえ方」「を思い出している」ということであり、すなわち、「かつてセザンヌに眼を開かれた仕方で、風景を統合しかたちとスタイルをその風景にあたえている」ということである。《11段落》の「セザンヌが絵を描きながら、かれ独自の想像力を働かせた」「おなじく僕らもまた、風景の前にあって生きいきと心を働かしている時、それはほかならぬ想像力の作業を行なっているのである」を答案の軸にして、「かつてセザンヌに眼を開かれた仕方で」という内容を加えてまとめると、答案がつくりやすいだろう。《12段落》にも、「ベーコンのスタイルにかさねてそれを把握する、自分の眼の働きを感じる」という内容があり、ヒントになる。

例えば、〈想像力を働かせながら風景を見るときに、かつてセザンヌの絵に感じたセザンヌ独特の風景の統合の仕方を思い出し、それと同じような統合の仕方をしながら風景を感じとる、ということ。〔85字〕〉というまとめ方でもよいだろう。

問4　傍線部を含む一文をチェックすると、「そして絵画よりもさらに直接的に、文学は、いかに人間を統合するか、いかにかたちをあたえて人間をとらえるかに、永い年月、努力をかさねてきたのだ」となっている。同段落のつづきは、「言葉で人間を表現する、ということが、いかに想像力的な作業であるか」「僕らは想像力を働かせて生きている」とあるから、「想像力を働かせる」ということが中心ポイントになる。

「絵画」も、「絵画のかたちのレヴェルで」「異化」し、「その『異化』の仕方が、かれの想像力の働きを表現してもいる」（《12段落》）が、文学は、さらに「想像力的な作業」である、というのが、答案の軸になる。一般的に考えて、「絵画」は、見たもの（ビジュアル）を絵（ビジュアル）として表現できるから、「文学」にくらべて「統合する」「かたちをあたえる」という「努力」は必要ない、というニュアンスを加えると、よりわかりやすい説明になる。

ただ、「直接的」という言葉の説明は難しい。ただ単に「より想像力が必要だという点」という説明では、「直接的」の説明（言い換え）にはならない。この説明のためには、《5段落》の傍線部(1)（**問1**で問われている部分）を踏まえて、「意識的に受けとめる＝言葉でとらえる」という説明が必要になる。（この部分の詳しい説明は、**問1**とダブるから、ここでは必要ない）。

以上のポイントをまとめあげるのは、なかなか難しいが、例えば、〈絵画でも対象を異化する想像力が必要ではあるが、それ以上に、対象をビジュアルとして表現できない文学では、まさに意識的に言語をとおして対象をとらえ、想像力によって対象を統合しようとする努力が必要である点。〔100字〕〉というようなまとめ方ができるだろう。

問5　傍線部がないので、まずは、本文から「想像力」についての記述を集めることが必要。本文を読み、ここまで問題を解いてきて、自分の頭の中に漠然としたイメージはあるだろうが、それをそのまま書くのでは、「答案」とは言えない。きちんと、「本文の記述」を再確認して、それをまとめる、という作業が必要である。

《2段落》　想像力は具体的に対象をとらえる　「異化」するかたちで

《3段落》　積極的　生きた心の関係　想像力の働き

《7段落》 想像力的なふくらみをそなえた言葉

《11段落》 セザンヌが絵を描きながら、かれ独自の想像力を働かせた
風景の前にあって生きいきと心を働かしている時　想像力の作業を行っている

《13段落》 文学　人間を見てとり、言葉で人間を表現する　想像力的な作業
日常生活での人間とのつきあいのレヴェル　想像力を働かせて生きている

設問の条件である、「異化」の働きとの関係、とは、例えば《2段落》のポイントから、「対象を主体的にとらえる想像力の働きが異化である」というように、「想像力」のひとつのかたちが「異化」である、という説明もできるし、「異化」する働きの根底には「想像力」がある、という説明もできる。これを明示しながら、本文全体（右にあげた「想像力」に関わる部分）をまとめる。あくまでも設問のメインは、「想像力」の説明であることに注意。「異化」との関係の説明だけでは不十分な答案になってしまう。「設問のメイン」と、「設問の条件」との主従関係はきちんと区別しよう。

【配点の目安】 50点　**問1**　12点　**問2**　8点　**問3**　8点　**問4**　10点　**問5**　12点

問1

〈概念化された把握とは　**ア**既に与えられた言葉によって　**イ**その言葉の意味するところをそのまま抽象的に捉えるものであるが、対象を意識的に受けとめる場合には、**ウ**眼前の対象に対して独自の想像力を働かせ、**エ**全体像を具体的に細部にわたって、自身の認識する枠組みを通して把握することになり、**オ**それは対象に自分の言葉を与える行為であるとも言えるから。〉…12点

※**ア**2点　**イ**2点　**ウ**3点　**エ**3点　**オ**2点

＊**ア**は、概念化された把握とは「既成の言葉で捉える」ものであると示せば可

＊**イ**は、概念化された把握とは**ア**により「抽象的に捉える」ことを示せば可

＊**ウ**は、「対象に対して想像力を働かせる」ことに言及すれば可

＊**エ**は、対象を「統合して、全体として」把握することを説明すれば可

＊**オ**は、「対象に言葉を与える行為」として説明すれば可

問2

〈ア能動的に対象を捉えようとすることによって、イ対象そのものが与えるイメージのひろがりが感得されるとともに、ウ主体的に対象に関わろうとしている　エ自分自身の生き生きした内面が意識される、ということ。〉…8点

※ア2点　イ2点　ウ2点　エ2点

＊アは、対象を「能動的に捉える」ことを示せば可

＊イは、「（内実のほかに）対象そのものを表現する」と示せば可

＊ウは、我々が「主体的に対象に関わろうとしている」ことに言及すれば可

＊エは、アによって「自分自身の内実を表現している」と説明すれば可

問3

〈ア自然の風景に接したときに、イセザンヌが独自の想像力を働かせ、ウ風景を自身の中で再構築した捉え方を、エありのままの風景にあてはめたうえで感じること。〉…8点

※ア2点　イ2点　ウ2点　エ2点

＊アは、「眼前の風景に」対して感じることと示せば可

＊イは、セザンヌあるいは我々が「想像力を働かせる」ことに言及すれば可

＊ウは、「風景を統合しかたちを与える」とセザンヌの風景の捉え方を説明すれば可

＊エは、ウを「眼前の風景に当てはめる」ことを説明すれば可

問4

〈絵画はア一枚の全体像の中で作者の想像力の働きを表現しうるため、イ作者の心的内容の具体性を表現に付与しやすい。これに対してウ言葉を介在させる文学は　エ表現そのものにかたちを与えることはできないため、オより想像力の働きに頼らざるを得ない点。〉…10点

※ア2点　イ2点　ウ2点　エ2点　オ2点

＊アは、絵画が「想像力の働きを表現している」と示せば可
＊イは、絵画が「対象を異化する」ことを説明すれば可
＊ウは、文学が「言葉で対象を捉える」と示せば可
＊エは、文学が「表現そのものにかたちを与えられない」と想像力を働かせる目的を説明すれば可
＊オは、文学が「絵画以上に想像力を働かせる」ことを説明すれば可

問5

〈ア人が対象を意識的に把握するというのは、対象をありのままに捉えることではない。それは対象を捉えようとする主体の積極的・能動的な働きであり、イそこでは対象を統合する、あるいはかたちをあたえるということ、ウつまり「異化」が行われている。エこの「異化」の作用を可能にするのが想像力である。オこの想像力は対象を把握する、表現する、あるいはその表現に共鳴する、といったカさまざまなレヴェルで必要とされるものである。〉…12点

※ア2点　イ2点　ウ2点　エ3点　オ1点　カ2点

＊アは、「対象を意識的に捉えるというのは、主体の積極的・能動的な働きである」ことを説明すれば可
＊イは、「異化」について具体的に説明すれば可
＊ウは、対象を意識的に捉えるとき、「異化」が行われることに言及すれば可
＊エは、「異化」は「想像力のひとつのかたちである」と示せば可
＊オは、想像力のさまざまなレヴェルについて、具体的に示せば可
＊カは、想像力が「日常のさまざまなレヴェルで必要とされている」ことを示せば可

【二】 出典…中西進『古典は語りかける』 ／ オリジナル問題

文章略解

紀貫之の「土佐日記」は今までおもしろくないと思っていたが、なかなか味がある。紀貫之は皮肉ばかりで嫌味な人間だと思ってきたが、皮肉な見方に一本筋が通っており、むしろその皮肉な見方によって別の取り合わせやあべこべという構図がもたらされ、笑いが起るのである。しかも、言葉だけで別の取り合わせやあべこべといった構図を作って喜んでいるのではない。見方をかえて見ることによって、実体そのものまで変わってしまったと人々に実感させるのである。

解答

問1 紀貫之は単に嫌味な人間であり、土佐日記もことばのとりあわせや転換のおもしろさだけを狙った陰鬱な作品だと思っていたが、読み返して見て、孤独の恐ろしさや人をだますことの空虚さを知った上で、皮肉な見方によって世の中を笑い、事実を創造してしまうことばのわざを発揮している土佐日記の魅力に気づいたから。〔146字・解答例〕

問2 紀貫之の、対象に対して情緒的にではなく距離をとって冷笑的に眺める皮肉な見方は、単に嫌味な、貫之の性格の悪さを感じさせるものではなく、見方を変えた時に見えてくる世の中の別の構図のおもしろさを発見させるという意味で、重要な意味をもつ、ということ。〔121字・解答例〕

問3 常識的に固定化された価値観からは見えてこない世の中の一面が、奇妙な取り合わせや転倒した見方によってはじめて見えてくる皮肉なおかしさ。〔66字・解答例〕

問4 (ⅰ) 実体そのものを変えてしまう言葉の本質的な力を知らずに、表面的なことばの取り合わせやあべこべによる笑いだけを意図した表現。〔60字・解答例〕

(ⅱ) 常識的な見方によらない貫之独特の世界観からくる独特のシニカルな表現は、単に表層的な笑いを意図したレトリックな

のではなく、現実認識を創造する言語の本質的な分節機能を熟知した上での表現であり、現実の根拠のなさへの不安や、世界の実体を把握できない虚しさまでも表現しているのであり、その本質を決して見逃してはいけないから。〔157字・解答例〕

解説

問1　「なかなか味がある」と判断するようになった「理由」を説明する問題だが、解答のまとめ方としては「なかなか味があると判断するようになったからだ」と答えればよい。（つまり、現代文の「理由」説明とは、実質的には「傍線部そのものの言い換え」になることがほとんどなのだ。）あとは、その「味」を本文のポイントをふまえてくわしく説明すればよい。

答案の前半では、設問の条件の「意識の推移」を説明するために、これまで貫之や土佐日記に抱いていた否定的な感想をまとめる（「味」がないと思っていたことの説明）。《2段落》の「嫌味な人間」、「やりきれない陰鬱さ」を説明し、さらに、筆者の主張と対比させるために、おもしろさが表面的なものでしかなかったことをまとめる。《3段落》の「シニカルな見方」「皮肉」、《5段落》「取り合わせやあべこべ」、《6段落》「たんなるだじゃれ」という言葉を活用したい。

「味がある」ことの説明は、《3段落》「皮肉に物を見る目が思わぬ発見をもたらしていること」《4段落》「見方をかえた時に見えてくる別の構図のおもしろさ」に気づいた、ということを軸に、《6段落》「事実を創造してしまうことばのわざを発揮し」ていること、《7段落》「孤独の恐ろしさ」「はかられたり、まぎらわされたりすることの空虚さ」まで知っていたことをまとめ、前半と対比させたい。

「要約型」の問題だと考えて、本文全体をまとめることになる。**問2**～**問4**との重複があってもよいのだが、**問3**の「一般的に」や、**問4**（ii）の「自分の言葉で」という条件とのバランスを考えると、この**問1**では、本文の言葉に即して説明するのが賢明だろう。

問2　「乾燥している点」「むしろ」「鋭い」をそれぞれ本文のポイントを使って言い換える。

「乾燥している」とは、ドライな見方、つまり、対象に感情移入する情緒的なべたべたした見方ではない、対象と距離をとり知的に面白がる「シニカルな見方」「笑い」ということだ、という説明をしたい。できれば「シニカル」という英語は、日本語に直して表現したい。語彙力がある人は、「対象化」「客観化」というニュアンスまで表現できるとさらによい答案になる。

「むしろ」という副詞は、京大で頻出の〝ニュアンス〟を表す言葉だ。「〜ではなく」を加えて説明したい。（〝ニュアンス〟の説明は、「逆」の要素を加えて説明するとうまくいく場合が多い）解答欄も大きいので、「単なる嫌味・陰鬱さではなく」という内容を加えると完成度が上がる。「鋭い」の説明は、直後の「皮肉に物を見る目が思わぬ発見をもたらしていること」をふまえ、その「思わぬ発見」とは、「見方をかえた時に見えてくる別の構図のおもしろさ」であることを説明する。傍線部を含む《3段落》内の「取り合わせのおもしろさ」「笑い」「それが…重要である」も加えたい。

問3との書き分け方だが、**問3**の条件「一般的に」と対比的になるように、「紀貫之」「土佐日記」に即した説明になるように（一般的な説明にならないように、この文章の具体的なテーマに即して）すればよい。

最後に、「言い換え」のかたちになるように、表現を整えて、答案を完成させる。

問3　傍線部を「言い換え」るかたちで、本文のポイントを説明する問題だが、設問に「一般的に」という条件があるので、（**問1**や**問2**とのバランスを考えても）「紀貫之」「土佐日記」という話題から離れて、「見方をかえた時に見えてくる別の構図のおもしろさ」を説明する。本文の言葉が使えないので、抽象化能力、表現力が試される問いである。

「見方をかえる」とは、「常識ではない見方」「異なる価値観」「別の視角」からものごとを認識することだ。つまり、「主体の側の見方の変化」を説明する。

「見えてくる別の構図」とは、反対に、「対象の側の見られ方の変化」を説明する。「別の一面が見えてくる」「見えなかった本質が露呈する」などの説明をする。

「おもしろさ」は、「皮肉」「笑い」を踏まえて説明すればよい。何となく答案のイメージは思い浮かぶが、本文にない言葉で表現するのはやはり難しい。解答例を研究したり、自分の答案を指導者に見てもらったりしながら、表現力を高めていこう。

なお、「設問の条件」にきちんと答えることの大切さも再確認しておきたい。「本文に即して」「わかりやすく」「具体的に」「一般的に」「簡潔に」などの指定は、単なる飾りではない。出題者がその条件を課すことで受験生にどのような答案を求めているのかを推測し、「条件に合う言葉で答案を書く」習慣を身につけよう。

問4　（ⅰ）「傍線部の一部」を言い換えて、「筆者の論」の逆を説明する問題。（ⅱ）と方向性が逆になるようにしたい。つまり、本

文中で「貫之や土佐日記は、単にAだけではなくBだ」と述べられているのをひっくり返して、「BではなくAだ」という説明をする。「A」の材料は、傍線部の直後「ことばだけあべこべのものを取り合わせて喜んでいる」こと、（B）の材料は、段落内では、「見方をかえて見ることによって、実体そのものまで変わってしまうこと」「孤独の恐ろしさ」「はかられたり、まぎらわされたりすることの空虚さ」、前段落では、「事実を創造してしまうことばのわざ」。字数や（ii）との関係から、「B」の説明は簡潔に。

（ii）理由説明だが、まず「海を空に見立てたなどといっているだけではすまされないから」と考える。その「すまされない」ことを本文のポイントを使って説明すればよい（理由説明もほとんど言い換えである）。傍線部の直後を中心にまとめればよいが、最終問題でもあり、解答字数も多いので、本文全体（特に《3〜7段落》）をまとめることになる。**問1**と表現が重ならないように注意したい。そのために設問の条件「自分の言葉で」を踏まえて、できるだけ本文の言葉をそのまま使わないように、（できれば評論的な抽象語を使って）言い換えたい。

解答要素は、

- 貫之のシニカルな態度、あべこべな取り合わせは
- 単に表面的な言葉の使い方、表現技法ではなく
- 事実を創造してしまうことばの力を熟知した上で使用されており
- 実体そのものの変化
- 孤独の恐ろしさ
- はかられたり、まぎらわされたりすることの空虚さという
- 本質を見逃してはならない（「すまされない」の言い換え）

であろう。これを「自分の言葉で」言い換えながら、まとめる。**解答**はあくまでも表現の一例であるが、なるほどこういう言い方があるのか、という言葉やフレーズはどんどん盗み、本番で使える「自分の言葉」として蓄えていこう。

【配点の目安】50点　**問1**　12点　**問2**　10点　**問3**　8点　**問4**　（i）8点　（ii）12点

問1

〈ア紀貫之は単に嫌味な人間であり、イ土佐日記もことばのとりあわせや転換のおもしろさだけを狙った　ウ陰鬱な作品だと思ってい

たが、読み返して見て、エ孤独の恐ろしさや　オ人をだますことの空虚さを知った上で、カ皮肉な見方によって世の中を笑い、キ事実を創造してしまうことばのわざを発揮している土佐日記の魅力に気づいたから。〉…12点

※ア2点　イ2点　ウ2点　エ1点　オ1点　カ2点　キ2点

＊アは、「紀貫之が嫌味な人間だと思っていた」と示せば可

＊イは、「土佐日記はことばの取り合わせや言葉の転換の面白さだけのものと思っていた」ことに言及すれば可

＊ウは、「土佐日記が陰鬱な作品だと思っていた」と示せば可

＊エは、「孤独の恐ろしさを知っていた」ことを示せば可

＊オは、「人をだますことの空虚さを知っていた」ことを示せば可

＊カは、「皮肉な見方」に味があると示せば可

＊キは、「事実を創造してしまう言葉のわざを発揮している」ことに味があると説明すれば可

問2

〈紀貫之の、ア対象に対して情緒的ではなく　イ距離をとって冷笑的に眺める皮肉な見方は、ウ単に嫌味な貫之の性格を感じさせるものではなく、エ見方を変えた時に見えてくる世の中の別の構図の面白さを発見させる　オという意味で、重要な意味をもつ、ということ。〉…10点

※ア1点　イ3点　ウ2点　エ3点　オ1点

＊アは、「情緒的でない」と〈乾燥している〉を説明すれば可

＊イは、「対象と距離をとる皮肉な見方」と〈乾燥している〉を説明すれば可

＊ウは、「単に貫之の嫌味な性格を感じさせるものではない」と〈皮肉な見方〉を説明すれば可

＊エは、〈皮肉な見方〉が「見方を変えた時に見えてくる別の構図のおもしろさを発見させる」と説明すれば可

＊オは、〈皮肉な見方〉が「エという意味で重要である」と示せば可

問3

〈ア常識的に固定された価値観からは見えてこない世の中の一面が、イ奇妙な取り合わせや　ウ転倒した見方によってはじめて見えてくるエ皮肉なおかしさ。〉…8点

※ア2点　イ2点　ウ2点　エ2点

＊アは、「常識的な価値観からは見えてこない」おもしろさであることに言及すれば可

＊イは、「奇妙な取り合わせ」によって見えてくるおもしろさであると示せば可

＊ウは、「転倒した見方」によって見えてくるおもしろさであると示せば可

＊エは、「皮肉なおかしさ」とおもしろさを説明すれば可

問4

（i）

〈ア実体そのものを変えてしまう　イ言葉の本質的な力を知らずに、ウ表面的なことばの取り合わせや　エあべこべによる笑いだけを意図した表現。〉…8点

※ア2点　イ2点　ウ2点　エ2点

＊アは、言葉の力を「実体そのものを変えてしまう」ものと説明すれば可

＊イは、「言葉の本質的な力を知らない」で判断していると示せば可

＊ウは、「表面的なことばの取り合わせによる笑いを意図している」と判断していることを示せば可

＊エは、「あべこべによる笑いを意図している」と判断していることを示せば可

（ii）

〈ア常識的な見方によらない貫之独特の世界観からくる独特のシニカルな表現は、イ単に表層的な笑いを意図したレトリックなのではなく、ウ現実認識を創造する言語の本質的な分節機能を熟知した上での表現であり、エ現実の根拠のなさへの不安や、オ世界の実体を把握できない虚しさまでも表現しているのであり、カその本質を決して見逃してはいけないから。〉…12点

※ア2点　イ2点　ウ2点　エ2点　オ2点　カ2点

＊アは、「貫之のシニカルな表現」について示せば可

＊イは、「表面的な言葉の使い方をしない」ことを説明すれば可

＊ウは、「事実を創造してしまう言葉の力を知った上での表現」であることを説明すれば可

＊エは、「実体が変化してしまうことによる不安」も表現していると示して可

＊オは、「はかられたり、まぎらわされたりすることによる空虚さ」も表現していると示せば可

＊カは、「すまされない」について説明すれば可

LK
直前京大国語総合演習
【1 回目】

Z-KAI

会員番号	

氏　名	

不許複製